

円高 弱者切り

先行きが見えない不況に、円の急騰が追い打ちをかけた。輸出に頼る企業、地方の外国人労働者、外国人相手の観光地……。この先、どうなるのか。1ドルが一時88円になった12日、将来への不安がふくらみ、暮らさずや職場が揺らいだ。



「日本の円が88円？ 仕事ますます難しいね」

日系ブラジル人2世のレナト・カズオ・オノハラさん(43)は顔をしかめた。約2万人のブラジル人が住む浜松市。円高の波が、自動車産業の街を直撃している。オノハラさんはこの日もハローワークを訪ねたが、とうとう職は見つからなかった。

「デカセギ」で来日して15年。3年半前から人材派遣会社を通じて自動車部品工場で働いていた。しかし、10月に突然、「仕事がない。今月でクビ」と告げられた。ブラジル人の妻(34)、長男(7)と3人で暮らしていた2DKの社宅から1週間以内に退去するよう命じられた。

退去の日、アパートの鍵と引き換えにもらえるはずだった有給休暇の買い取り分8万円はもらえなかった。手渡された離職票の退職理由欄は「余剰人員削減」の文字が二重線で消され、「自己都合」

デカセギ15年 職も家も

に書きかえられていた。オノハラさんの給料は約22万円だった。派遣会社から家賃や光熱費名目で13万円余が引かれていた。高すぎると感じたが、外国人を敬遠する大家が多く、独力で部屋は借りられなかった。社会保険や税金を払えば、毎月5万円しか残らなかった。別の自動車部品工場に働いていた妻も、9月に解雇されており、収入は途絶えた。お金もためていなかった。

長男が通うブラジル人学校の授業料は月3万8千円。学校に支払いの猶予を頼んだが、認めてもらえなかった。2年生の修了式まで2週間を切った12月初め、退学さ

せられてしまった。「何で学校に行けないの?」。長男は泣きながら言った。

退学7歳、涙で「なぜ?」

オノハラさん一家はいま、キリスト教団体の仲間で日系3世のラモス・ロペリオさん(41)が空き店舗を使って開いた「一時避難所」に身を寄せている。帰国する旅費を稼ごうと職探しを続けているが、成果はない。「日本人だって失業者が多い。ブラジル人を雇う会社はないよ」

ハローワーク浜松は秋以降、失業した日本人とブラジル人であふれかえっている。10月の外国人求職者からの新規申込件数と相談件数は、過去最高の計635件を記録。07年10月の2倍を超えた。

「去年の今ごろは仕事がたくさんあったのに」。長男の肩を抱くオノハラさん。浜松市内

韓国人客激減 スキー場悲鳴

「今シーズンの韓国人客は、かなり厳しい状況です」

急激な円高ウオン安の進行に、福島県警務町のスキー場「アルツ警務」の担当者はため息をついた。韓国のケーブルテレビでホテル設備などを紹介する番組を放送し、観光客誘致に取り組んできた昨年は、スノーボードの韓国人インストラクターも雇ったが、今年はず定が無いという。

同県の磐梯山周辺のスキー場やホテルは一昨年共同出資で、ソウル便がある福島空港や、仙台空港を結ぶ無料シャトルバスを運行してきた。だが、今年の予約状況は

昨年の半分以下という。

福島県はゴルフやスキーで訪れる韓国人が多く、07年の韓国人宿泊者は約5万7千人で5年前の5.5倍だった。同県観光交流課は「夏場のゴルフ客に比べると、スキー客は所得が低い若者客が中心で為替の影響を受けやすい。大きな痛手だ」と嘆いた。

「1ドル＝90円」 破られた張り紙

外国人客が多い東京・六本木。6割が外国人というパバーでは、米ドル払いの客向けの「1ドル90円」の張り紙が破られたことがあった。男性店長(23)は「客は良い顔はしない。やりづらいたろう」。ドルを金融機関で円に換えるには手数料がある。円高が進むようなら、ドル払いは受けつけないようにする考えだ。

別のレストランでは客

の6割を占めていた外国人

がめっきり減り、最近では日本人客の方が多くなった。1カ月の売り上げも約1割下がった。店長のマラ・ナラヤンさん(38)は「外国人観光客はもちろん、外貨で給料をもらうビジネスマンの来る回数も減った。『円高で給料が少なくなったんですよ』とぼやいている」と困り顔だった。

給料がドル払いという米国人男性(30)は最近の円高に「壊れているね」と一言。食事代を節約しているといい、真っすぐ家路についた。

